

③ 石狩市海浜植物等保護地区

保護地区がなぜできたの？

1960年代以降増加した海浜レジャー利用、車両の砂丘乗り入れ、ハマボウフウの過剰採取などによる砂丘の破壊や海浜植生の消失が問題

石狩川の河口 16.5ha を占有
監視員を配置した保護区の設置

保護地区外での砂丘の消失を危惧した市民の声を受け、石狩湾港湾隣接地域に車の乗り入れ防止柵を設置、「石狩川河口海浜植物等保護条例」を施行し保護の推進

現在

「石狩市海浜植物等保護条例」を施行し
保護地区を拡大（R2年現在 54.3ha）



親船地区 27ha
(自然ふれあい地区)
2013年指定 (2018年拡大)

弁天地区 3.0ha
(自然ふれあい地区)
2013年指定

河口地区 16.5ha
(生態系保護地区)
1978年指定

聚富地区 7.8ha
(生態系保護地区)
2012年指定



サービスレイヤーの著作権: Source: Esri, Maxar, GeoEye, Earthstar Geographics, CNES/Airbus DS, USDA, USGS, AeroGRID, IGN, and the GIS User Community

令和2年度現在保護地区指定箇所 0 0.5 1 2 3 4 km

保護地区の区分と役割

保護地区区分	条例の内容	役 割	該当地区	共通事項
生態系保護地区	人の立入、植物採取や車馬の乗入れを禁止	車馬と人の立入を両方制限し、人の手なるべく加えない形で砂丘の生態系を維持する	- 河口地区 - 聚富地区	
自然ふれあい地区	- 車馬の乗入れ禁止 - 過度な植物採取の禁止	車馬の立入は制限するが、地元の食文化や植物とのふれあいのために個人で利用する植物採取は可能（営利目的や過剰採取不可）	- 弁天地区 - 親船地区	

保護するとどうなるの？



保護地区外



保護地区内（親船地区：自然ふれあい地区）

保護地区に指定すると、車両の過度な乗り入れがなくなります。

そのため、植物が再び生育できる環境になり海浜植生が戻るきっかけとなります。

食材として利用されていた植物って？

ハマボウフウ（セリ科）

砂地に根を長く伸ばして生息する海浜植物のひとつ。独特の香りがあり、早春芽吹いたばかりの株は食べることができます。石狩浜では根こそぎの採取により数を減らしたといわれていますが、保護地区内では回復傾向にあります。



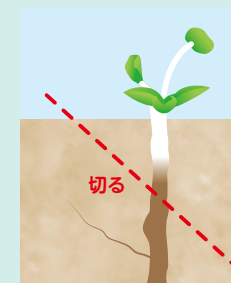
発芽から本葉を付けるまでの様子

食べごろ♪



持続可能な ハマボウフウの採り方

葉が開き始めの時期に、砂を少し掘ると白い茎が出てきます。その部分より上部を食べるのに適しています。



盗掘は今でも少なからず続いています。ハマボウフウの根から採取し続けると、タネをつけて数を増やす株が減るため、その状態が続くとハマボウフウがなくなってしまいます。

上記のように、白い茎から下の地下茎を残すことで再び葉を開き、生育ができるといわれています。